

時事新報廣告料改正  
時事新報は紙面を改良し面目を一新して以て發刊の經  
歟大に増加したれば廣告の効能も亦前日の比に非ず  
て十一月一日より左表の如く廣告料  
依て基料金と可申受候此後廣告致候也  
時事新報廣告料 (前金)

五號活字廿四字體

卷之三

ふ可らず

忠義は人生の本心に存し殊に日本人の量んする所にして國中如何なる無能者にても我帝室を守るはし奉らんとの忠心を懷く者はある可らず萬一或は種ならぬ言語を發する者もわらんか、唯是れ筆舌に拙なきが爲めか而實しくは熱心の餘り一步と國外づしたるまでにして其心中を察すれば同じく忠臣の人たるに相違なし左れば忠誠の人を戒しむるには單に冒頭の末のみを見ずして又其真情を胸に顧下しに汝は不忠不臣なりなど罵罵せしして常に其不必得と諭し汝の言論は僕令ひ忠義の心より出るも其吐露の方性甚ならずして或は極端を以し奉るに至るの點なきにあらざれば其邊は能く懐む可しとて想に歸へなば當人も深く省みて自から覺明する所ある可とに反し偶然に他の一句と聞て僵然に之を怒り熱心切連直に大不敬な也容易に用ふ可しとする激論を以て之を罵るとさは罵られたる當人に於ては固より斯る大謗を犯したる覺なければ憤然として怒るは勿論にして其罪名を附したる者を以て俱に天を戴かざるの敢と爲し激論に對するに激語を以てして一方が大不敬と疾呼すれば他の一方は汝ふそぞて大不忠なるは勿論にして共に忠義の人にてありながら共に不忠の人と爲り無二の忠義圖が恰も亂臣賊子の巢窟と化したるが如き顛を呈するに至る可し昇平の平地に不忠不義の波濤を生ずるものにして嗤長大恵す可きのみ又忠義よりも譬へば猶は空氣の如し何人が之を呼吸するも禁ずるより下は草夫馬丁に至るまで各々其分前を取るの様ある日本人の共有物にして何人にも事有を容さず上は大臣我々日本人の之を重ずると甚だ厚くして殆んせ生命するに代へ難を経せなるに爰に人あり已れ獨り忠義頗して他を目するに不忠を以てするは取りも直さず國民共有の精神を犯し天上天下唯我獨忠を氣取る者にして汝は日光に照さるゝの權なじとて地下の暗窟に暮らんとするに異ならず人心を殺するみどなからんと欲するも皆べからざるなりされば現今の盲論界に忠不忠は容易に見ゆ可らず云はす詎らナ歎して各々其分を盡せば忠義は則ち無言の間に存して帝室は自から萬年の業を興むみると謂へばに世間の論者か性急にして此邊に心附かず黙せりまや嘆して獨り忠義と私せんとするば大なる心と爲して忠義をさる太義と私義に據めて容易ならざる事體を拂ひ成る忠の士に謂ふると云ひ或は大不敬と云ふと謂へばに世間の論者か性急にして此邊に心附かず黙せりまや嘆して獨り忠義と私せんとするば大なる心と爲して忠義をさる太義と私義に據めて容易ならざる

得体と云ふの外なし更に一步を進めて論すれば常言は  
事體なると共に亦仁愛の泉源たり臣民の之を論する事  
と神の如く之を慕ふると父母の如くにして其徳いと  
く高きを知る可し古は只その敬す可きを知て觀む可  
きを知らず皇帝を理すれば明失ふ可しとの俗説は  
ありしがなるに今は則ち然らす内外の士に属々謂う  
を賜ひ又時として比諸方に御巡幸の事なきありて民と  
共に親させ玉ムの御意なるふと覗ひ知る可し然るに今  
若し宫廷官吏の行を講じて言少しく穩ならざればとて  
直ち杯干するに大不敬なを云へる恐ろしき名を以てせ  
ば其結果は如何なる可きや人民は只恐怖戰慄して所謂  
朝廷内神に祟なしどの念を起し云ふ可き事わるも口を  
閉して復た云ばず帝諱を以て恐る可くして近く可らず  
歎可くして觀む可らざるものと爲すに至らん審心す  
可き事ならずや政治の争は如何に據しきも嘗嘗する所  
に非ず只其争に忠不忠を云ふは我輩の深く恐る所  
なり

「ベスト」研究所ノ爲フ横濱へ出張ス合ス(十一月二十二日) 横濱へ出張ス(十一月十八日) 同  
横濱大財 竹内政光 藤井大財 大井才太郎  
醫科大學教授藤井博士 廣井 正規  
山種勝三郎  
通情技術

○横須賀行幸御模様

天皇陛下には蒙て仰出されし如く昨日午前八時二十分  
宮城御出門、軍艦駆逐天覽の爲め横須賀軍港へ行幸む  
らせられたり御陪乗は徳大寺侍從長、供奉は土方宮内  
大臣、岡澤侍從武官長以下侍從侍醫の方々にて、函館、  
々御船路を經て午前八時三十六分新橋停車場へ着御む  
らせられたり是より先に松方總理大臣を始め西郷、大  
隈、岸山、高嶋、榎本、野村、清浦、餘畠等の各大臣、伊東  
軍令部長、兒玉、伊藤、鈴木の三次宮、久我東京府知事、  
三浦宮中顧問官、鶴岡、山本の兩海軍少將、松本鐵道局  
長以下數十名は時刻前より同所にて御待受け申上げ風

○横須賀軍港天覽艦船配

置況をんりはしき所一失はど

The image shows a vertical column of Japanese text on the right side of the page. The text is enclosed in a decorative border. The text reads:

○横須賀軍港天覽艦船配置圖



(5) 銀河(る) 海道(は) 松崎(こ) 天城(ほ) 桃樂(く) 千代田(ミ) 筑紫(ち) 吉野(よしの)  
(6) 和泉(ニ) 猿體(わ) 八重山(ヘ) 横立(ト) 平遠(チ) 越田(リ) 横須賀製鐵(よこすかせいてつ) 本  
鶴の御着(みゆき)を迎(むか)へ奉(まつ)り夫(め)より松本(まつもと)鐵道局(てつどうきょく)長(なが)の御先導(ごせんどう)に  
て御(ご)休憩(きゆうけい)なく直(ただ)ちに別(べつ)仕立(しだて)の列車(れっしゃ)へ乗(の)御(ご)。諸氏(よし)はラ  
ットボーム(ラットボーム)追奉(ついほう)送(おもてな)したり陛下(げしや)には大元帥(だいげんし)の御軍服(ごぐんふ)を召(めざ)  
させられ龍顏(りゆうがん)いと麗(うるわ)しく大臣(だいじん)以下の(の)敬禮(けいれい)に對(たい)して御(ご)な  
答(とう)應(ひき)はされ直(ただ)ちに御發車(ごはっしゃ)、松方(まつがた)、西郷(にしきょう)、津山(つやま)、高嶋(たかしま)、板(いた)の  
本(ほん)の各大臣(だいじん)、伊東軍令部長(いとうぐんれいぶなが)、伊藤次官(いとうじかん)、山本(やまもと)、駒場(こまば)の兩少(りん)  
將(しょう)以下(げしや)海軍(かいぐん)將校(じょうこう)等(とう)は横須賀(よこすか)遠(とお)供奉(くふう)し參(さん)らせたるが顯(あらわ)  
し。天覲(てんくwan)後(ご)午後(ご)二時(じ)十五分(じゆふん)横須賀(よこすか)御發車(ごはっしゃ)にて同(どう)五時(じ)二  
十分(じゆふん)新橋(しんばし)へ着(つ)御(ご)。還奉(かへり奉)あらせられたり因(いん)に記す。當日(とうじゆ)西  
郷(にしきょう)、津山(つやま)の二相(にじょう)は海軍(かいぐん)大將(だいじょう)の正裝(せいぞう)、又板(いた)の兩少(りん)  
の正裝(せいぞう)と着けたりと尙ほ横須賀(よこすか)の御機嫌(ごきがわ)は別(べつ)に詳記(ようき)